

お わ り に

共に学ぶ教育推進モデル事業の第Ⅲ期では、令和3年度からの3年間にわたって、県内2つの地区にある小学校、中学校及び高等学校において、特に「ユニバーサルデザイン」に焦点化した教育実践に取り組んでいただきました。

御承知のとおり、我が国のインクルーシブ教育では「連続性のある多様な学びの場」、「その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組み」を実現していくことが謳われています。これは、子どもたちに必要とされる、その時点で最も適切な「学びの場」を選択できるよう、様々な選択肢を用意するということかと思えます。一方、我が国のインクルーシブ教育では、「同じ場で共に学ぶことを追求」することも謳われています。そのためには、通常の学級において、どの子どもにとっても分かりやすい授業の在り方を追求することが求められます。このことが、「ユニバーサルデザイン」に基づく授業についての検討が必要となる所以です。なおその際、皆が授業に参加し、学んでいることを実感できる、ある一つの授業方法を見出していこうとする方向もあるかと思えますが、「学び方」、あるいは「学びの方法」の多様な選択肢が用意され、それらが授業実践のなかに予めビルトインされているという授業の方法を考えていくという方向もあるかと思えます。つまり、同じ「学びの場」のなかで、多様な「学び方」の選択肢が用意されているという方向性です。これは、近年謳われている「個別最適な学び」の保障にもつながることかと思われます。

第Ⅲ期において取り組んでいただいた多様な教育実践の成果が県内すべての学校で活用されていくことを期待いたします。

令和6年3月

共に学ぶ教育推進モデル事業連絡会

委員長 野口 和人

(東北大学大学院教育学研究科 教授)